

令和元年6月17日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K03597

研究課題名(和文) 産業地域における競争の文脈の形成・変容過程に関する理論的・経験的研究

研究課題名(英文) Emergence and transformation of competitive contexts in industrial districts

研究代表者

相原 基大 (Aihara, Motohiro)

北海道大学・経済学研究院・准教授

研究者番号：40336144

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、産業地域において競争の文脈が形成・変容する過程に関して経験的研究を展開し、産業地域で生起する経営現象の背後で働く社会機序を解明することである。主要な成果は次の3つである。(1)国内外の産業地域を対象に競争の文脈が形成・変容する過程を精緻に記述し、同過程に作用する社会機序に関して仮説的な知見を得た。(2)文脈群の振る舞いを数的に捉える解析手法を事例研究に適用し、産業地域研究に導入する技術的基盤を改良した。(3)産業地域における競争の文脈の理解に向けて、歴史的な文献類と取材・実地調査とを相補的に用いて時々の状況や背景を掴む歴史民族誌アプローチの方法論的特徴、利点、留意点を整理した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は2つある。第1に、マクロレベル(産業地域レベル)で観察される現象とミクロレベル(行為主体レベル)で観察される行為とをつなぐミッシングリンクである「産業地域における競争の文脈」の形成・変容過程と同過程に作用する社会機序に関して、計量テキスト分析による数的な解析と歴史民族誌アプローチに依拠した質的分析とを併用して、新規性ある仮説的な知見を提示したことである。第2に、それぞれの産業地域に固有な競争の文脈に関する精度の高い知識を得る方法論的および技術的な基盤を整備したことである。

研究成果の概要(英文)：This study aims to explore social mechanisms working in emergence and development of competitive contexts in industrial districts. A combination of the two analytical methods, the quantitative analysis of texts in documents and historical ethnography, was applied in case studies of five industrial districts. A set of potentially possible explanations for the emergence and development of competitive contexts in industrial districts was generated through comparative case study research.

研究分野：経営学

キーワード：産業地域 競争の文脈 社会機序

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景にある基本的な問題意識は「産業地域における競争の文脈はいかなる過程を経て形成され、変容していくか」にあった。

先行研究が暗黙的に採用していたのは、産業地域の構造特性というマクロな現象から産業地域の経済的成果というマクロな変数の挙動を説明するアプローチであった。同アプローチでは、競争力ある産業地域の構造特性の解明がすすめられ、それぞれの産業地域が直面してきた競争環境や業界内で長い期間をかけて培われてきた史的背景などによる影響をできる限りコントロールした一般化を目指していた。

他方、産業地域を構成するそれぞれ行為主体の展開するミクロ的な行為が、産業地域のマクロ的な構造特性をどのように生み出し、産業地域の競争力を支えていくか、マクロ的な変化や変動がミクロ的な行為や活動主体間の相互作用にいかなる影響を与えるか等の動的な社会機序を捉えきれていなかった。

研究を開始した時点で、本研究と同様の問題意識をもち、産業地域の動態理解に当地特有の競争の文脈を積極的に位置づけるパースペクティブに関して、欧州を中心に経験的・理論的研究の萌芽はみられていた (Moulaert and Sekia 2003; Staber 2007; Maennig and Ölschläger 2011; Porac, Thomas, and Baden-Fuller 2011)。一方、産業地域で流れてきた競争の文脈を観察・記述する経験的データのハンドリング手法や、競争の文脈が形成され変容していく過程を理解する理論的な視角や概念的な道具だてが揃っていない状況であった。

以上の研究状況の理解にもとづき、本研究では、マクロレベル（産業地域レベル）で観察される現象とミクロレベル（行為主体レベル）で観察される行為とをつなぐミッシングリンクである「産業地域における競争の文脈」の形成と変容の過程を解明し、既存研究の限界を乗り越えようとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、産業地域で流れてきた競争の文脈が形成・変容する過程に関して経験的研究を展開するとともに、産業地域で生起する経営現象の背後で働く社会機序を解明することである。具体的には、(1)主に歴史的な資料に残された業界の行為主体の言説群を対象に2つの手法（計量テキスト分析および質的分析手法）を併用して、産業地域に特有な競争の文脈の流列を精確に記述し、(2)実地調査を通して収集した現場情報や当事者見解の助けを得て、産業地域特有の文脈が形作られ、変容していく過程を具体的な事象や行為、経済的な統計数値の挙動と関係づけて理解することにより、(3)マクロレベルの現象とミクロレベルの行為との間で循環的に作用する社会機序の析出を目指した。

3. 研究の方法

本研究プロジェクトは4年計画で実施された。以下、研究期間に沿って研究の具体的な方法を記述する。

研究期間の初年度は次の3つの活動に従事した。

第1に、産業地域における競争の文脈の形成・変容過程を理解する試論的な概念枠を組み上げた。具体的には、産業地域の活動主体が日常的に用いるカテゴリ群の振る舞いに注目する立場を採用し、近年、組織研究分野で急速に発展しているカテゴリ研究分野の一連の知見 (Hsu, Negro and Koçak 2010) を系統的に整理した上で、産業地域研究への適用に向けて暫定的な視角と概念枠とを準備した。

第2に、次年度以降に本格的に展開する事例研究に向けて、統計記録および歴史的な資料の収集に努め、基礎的なデータセットの整備に着手した。具体的には、木工インテリア製造業、眼鏡枠製造業、ソフトウェア開発業の各分野を代表する産業地域での実地調査や国内外の研究者からの協力を得て、各種の二次資料を収集し、分析用のデータを蓄積していった。データセットに含まれる主要なデータは次の3つである。①業界団体が内外に配布していた資料、業界内で流通していた雑誌や新聞記事からなるテキストデータ。②国内外の産業地域で組織された

業界団体や行政機関が発表する統計データ。③業界団体や行政機関によって各産業地域で断続的に実施されてきた実態調査のデータ。ソフトウェア開発業の産業地域の一事例に関しては、関係者へのヒアリング調査データを含む試行的な分析に必要な水準のデータが揃ったため、原初的な事例研究を遂行し、競争の文脈の形成・変容におけるカテゴリの振る舞いの役割について検討した。なお、同研究の一次的な成果に関しては、(1)本研究の成果を支える基幹的なデータおよび証言に関して開示可能範囲に制約がある、(2)データセットの再編と再分析の余地が残されているの2点から、公開をペンディングすることになった。

第3に、代表者が探索的に見出していた業界の文脈を計数的に捉える手法を、国内の眼鏡枠製造業分野の産業地域に関して構築した分析用データセットを対象に試行的に適用し、当産業地域の内外で流れてきた競争の文脈の把握に努めた。

研究期間の第2年度は次の3つの活動に従事した。

第1に、昨年度から引き続き産業地域内外で残されてきた歴史的な資料の収集をすすめるとともに、同資料にもとづき、実地調査で得た口述史等で一つひとつ裏付けを得ながら、分析用データセットの更新をすすめた。具体的な内容は以下の通り。(1)木工インテリア製造業の産業地域に関しては、1960年代からの統計資料、業界紙誌等を収集して、分析に適用データ形式に変換する作業を推進した。(2)ソフトウェア開発業の産業地域に関しては、1970年代からの主要な二次資料を、実地調査で得た一次データと改めて照合作業を進め、分析用データセットを再構築していった。(3)眼鏡枠製造業分野の産業地域に関しても、前年度に収集した基礎的な資料・文献のリストを作成するとともに、一部の資料(イタリアの眼鏡枠産地に関する1980年代の文献類)を除き、国内で入手可能な欧州の資料を渉猟していった。(4)上記の資料収集・整理と同時に、眼鏡産業および家具インテリア産業を中心にひろく業界関係者へのヒアリング調査を実施し、歴史的な資料の時代背景、業界内外での資料内容の捉え方などについて理解を深め、同時に産業地域を取り巻いていた競争の文脈のなかで個別具体的な史実群を位置づける形でデータセットを整えていった。

第2に、競争の文脈の形成・変容において特徴的な過程が観察され、分析用データセットの構築に一区切りのついた一部の産業地域を対象とした個別事例研究を遂行した。具体的には、眼鏡枠製造業分野で国内を代表する産業地域を主な対象に、①業界団体や行政機関が刊行した統計記録および実態調査記録にもとづく年代記・歴史分析、②ヒアリングデータを対象にした質的データ分析、③複数の業界紙誌データを用いた計量テキスト分析の3つ分析結果を適宜照合し、当該産業地域を取り巻いていた競争の複数の文脈の抽出、産業地域のマクロ的なパフォーマンスの挙動とミクロな経験的事象の連鎖的な繋がり の記述、産業地域における競争の文脈の形成・変容過程に関する因果的推論をそれぞれ試行的に実施し、次年度以降の研究活動のひとつの原型を定めた。他方、当該産業地域における競争の文脈、とくに1990年代以降の文脈の変容過程を正確に理解するには、1980年代に欧米で始まっていた世界規模での業界競争の進展による直接的・間接的な影響を踏まえた分析が不可欠であることが判明し、成果発表計画を一部見直した。

第3に、産業地域における競争の文脈の形成・変容過程を理解する概念枠の改訂をすすめた。具体的には、事例研究の過程で得た、産業地域における長期にわたる競争の文脈の形成・変容過程に大きく影響する諸事象を手がかりに、批判的実在論の立場にもとづく因果性の理解(Danermark, Ekström, Jakobsen and Karlsson 2002)を反映させるかたちで、前年度の時点で試論的に構築していた概念枠を修正した。産業地域を特徴づけるカテゴリの振る舞いに注目して、同地における競争の文脈の形成・変容パターンを記述するだけでなく、同パターンの背後にある社会機序を同定する因果的推論により適した方向に概念枠の拡張を試みた。

研究期間の第3年度は次の3つの活動に従事した。

第1に、前年度に引き続き、データセットの更新を進めた。前年度までに収集が進んでいた産業地域および関連業界に関する歴史的な二次資料を整理し、整理した内容をもとに長く業界で事業に従事していた関係者にヒアリング調査を重ねた。主に国内木工インテリア製造業の主要な2つの産業地域における競争の文脈の形成・変容過程に関して、分析作業を遂行しながら欠けているデータ類を見出し、ヒアリング調査で得た新規のデータをもとに分析用のデータセットを更新した。他方、国外の産業地域、主にイタリアの眼鏡枠製造業分野の産業地域に関す

る歴史的な資料の収集を継続し、次年度の比較分析に向けた準備をすすめた。具体的には、現地の新聞・雑誌記事のアーカイブ、当地の業界団体や行政機関が過去に公開してきた調査資料、当地を対象とした既存研究等を軸に、記述的な研究に資する包括的なデータセットを整備する一方、収集可能な一次データの制約との課題を残した。

第2に、データセットの更新順に産業地域単位での記述的な個別事例研究を進めた後、研究の進んでいる一部の産業地域に関して因果的な研究を試みた。個別事例研究に際しては、過年度の調査研究で試行的に実践してきた次の4つの手法を系統的に用いた。①歴史的な資料にもとづく年代記分析による産業地域で経験してきた事象群の軌道の記述。②業界団体および行政機関が公表した各種の統計・調査資料の整理・分析。③計量テキスト分析の手法を用いた産業地域特有の文脈の数的な把握。④業界および産業地域で長期にわたり事業に従事してきた経営者、従業員に対するヒアリング調査で得た言説群やデータに関する質的分析と歴史的な資料の読解。

第3に、個別事例研究の成果を生かして、産業地域における競争の文脈の形成・変容過程を理解する概念枠を修正した。具体的には、事例研究の結果として、産業地域を特徴づけるカテゴリの振る舞いに注目して、同地における競争の文脈の形成・変容過程を理解しようとする場合、前年度までに改良してきた概念枠では実際に観察されるカテゴリの振る舞いに関する特定のパターンを十分に説明できないことが判明した。そこで、科学技術社会論分野で発展してきたオブジェクト研究の知見（Star 2010）をもとに、カテゴリの内的な性質を組み込み、カテゴリが振る舞うパターンを生成する社会機序を同定できるように概念枠の修正を試み、産業地域に関するデータの再分析を実践していった。

研究期間の最終年度は、過年度の調査研究活動で得たデータの整備と更新を進めつつ、詳細な事例研究を遂行し成果をとりまとめていった。具体的には次の2つの研究活動を展開した。

第1に、実地調査および歴史的な資料の収集を引き続き実施し、データセットの完備性を高めるとともに、比較事例研究に適したデータ管理様式の考案に従事した。とくに、国内木工インテリア製造業分野の2つの産業地域に関しては、過年度の調査を通して得た業界との社会的なコネクションを通して、産業地域で形作られてきた競争の文脈が大きく変容するタイミングで生じた事象を理解する資料に接する機会に恵まれる等、歴史的な資料の実質的な意味を読み解く上で必須となる当時の取引関係の構造、商慣行、業界内の人脈、業界内外の重要事象をつかむ証言群をもとにデータの不足分を補っていった。他方、同じ業界で同じ時代を生きぬいてきた産業地域群を対象にした比較分析に適用するためのデータ管理様式を検討し、競争の文脈の形成・変容過程を生成するメカニズムを高い精度で抽出する技術的な基盤を整えていった。

第2に、それぞれの産業地域を対象にした研究内容に依拠して比較事例分析を遂行し、産業地域において競争の文脈が形成される過程、同文脈が変容していく過程のそれぞれで作動する社会機序の同定を試みた。具体的には、まず、同じ業種に属する産業地域群（眼鏡枠製造業に属する国内外の各産業地域）を取り上げ、①1960年代から2010年代にかけてそれぞれの産業地域で流れてきた競争の文脈、②それぞれの産業地域において競争の文脈が形成され変容していくパターン、③産業地域の内外にあって同パターンの生成を駆動したトリガーとなる事象や過程を検討していった。その後、業種の異なる産業地域に関する個別事例研究の成果をひとつずつ取り上げ、業種の違いに起因する影響を取り除きながら、産業地域で流れる競争の文脈が形成され変容していく過程で作動するより一般性の高い社会機序に関する仮説的な知見の析出を試みた。

4. 研究成果

本研究のこれまでの主要な成果は次の3つである。以下、順に記す。

第1に、産業地域における競争の文脈が形成・変容する詳細な過程について、国内外の5事例を対象に一定の記述的な研究成果を得るとともに、複数事例を対照しながら同過程に作用する社会機序に関する仮説的な知見を得、成果の一部をディスカッションペーパー（相原 2019）にとりまとめた。ソフトウェア開発業の産業地域に関する個別事例研究の成果を参照しつつ、主に眼鏡枠製造業、木工インテリア製造業の産業地域群の比較研究を通して、(1)それぞれの産

業地域内で通用する常識やボキャブラリ、当然視されている事業所ごとの明確な線引きなど、産業地域に特有のフレームやテンプレートの発達、(2)それぞれの業界で国際市場が成立していくに従い、産業地域を取り巻く競争の支配的な文脈が、同地域に拠点を置く有力な企業群のグローバル戦略に結びついていく過程、(3)産業地域における競争の文脈が、①同地域で創業した主要各社による戦略的選択の積み重ね、②グローバルな規模で展開していく業者間の切磋琢磨、③産業地域の発展軌道からは外生的に見える出来事への反応などにより大きく変容していく社会機序を明らかにするとともに、(4)「産業地域」に備わる当事者たちの認知的な構成物としての側面に注目する新たな理論的視角を得ている。

第2に、代表者が探索的に見出していた、業界に流れる文脈を数的に把握する解析手法を事例研究に適用することにより、産業地域研究に対する同手法の含意と留意点をより明確にし、同研究分野に応用する際の技術的な基盤を改良した。産業地域を分析単位に位置づける研究群では、産業地域の行為主体の言説を分析する手法が確立されておらず、当地特有の競争の文脈を積極的に位置づけた経験的研究の蓄積は進んでいなかった。本研究期間において、完備性の高いテキストベースのデータセットを(再)構築し、同データセットを対象に計量テキスト分析の手法を用いて、研究対象とした産業地域における競争の文脈(群)とその経時的な振る舞いの析出を重ねるとともに、具体的な分析結果の一部を示したペーパー(相原・秋庭 2016)を公開している。

第3に、競争の文脈の理解に向けて、本研究を遂行する過程で実践した歴史民族誌(historical ethnography)のアプローチに関する方法論的特徴と、同アプローチを産業地域研究に応用する際の利点と留意点を整理した。歴史民族誌とは、歴史的な文献類をもとに研究の営みを設計し、調査・研究対象の文化的・制度的な側面(所与条件、常識、不文律など)がその世界で生きる人々の思考や考え方に与える影響を理解する一つの手法であり、組織研究の分野等で採用されてきた(e.g., Vaughan 2004)。同アプローチは、歴史的な資料に残された業界の行為主体の言説等の各種記録を体系的に整理するとともに、できるかぎり当時の資料類を参照しつつ取材や実地調査に着手することで、過去を直接に観察できない原理的な弱点を補う手法である。史実をなぞるだけでなく、当事者たちの直面していた時々の状況や背景をつかむ有力なアプローチであり、本研究の遂行にあたり重要な位置をしめた。成果の一部については、大阪経済大学(中小企業・経営研究所)で開催されたアントレプレナーシップ研究会(「木製家具産地の研究: エスノグラフィーと歴史研究アプローチ」, 2018年1月15日)にて報告している。

<引用文献>

- Danermark, B., M. Ekström, L. Jakobsen, and J. C. Karlsson, *Explaining Society: Critical Realism in the Social Sciences*, Routledge, 2002.
- Hsu, G., G. Negro, and Ö. Koçak (Eds.), *Categories in Markets: Origins and Evolution*, Emerald Group Publishing, 2010.
- Maennig, W., and M. Ölschläger, Innovative Millieux and Regional Competitiveness: The Role of Associations and Chambers of Commerce and Industry in Germany, *Regional Studies*, 45(4): 441-452, 2011.
- Moulaert, F., and F. Sekia, Territorial Innovation Models: A Critical Survey, *Regional Studies*, 37(3): 289-302, 2003.
- Porac, J. F., H. Thomas, C. Baden-Fuller, Competitive Groups as Cognitive Communities: The Case of Scottish Knitwear Manufacturers Revisited, *Journal of Management Studies*, 48(3): 646-664, 2011.
- Staber U., Contextualizing Research on Social Capital in Regional Clusters, *International Journal of Urban and Regional Research*, 31(3): 505-521, 2007.
- Star, S. L., This is Not a Boundary Object: Reflections on the Origin of a Concept, *Science, Technology, & Human Values*, 35(5): 601-617, 2010.
- Vaughan, D., Theorizing Disaster: Analogy, Historical Ethnography, and the Challenger Accident, *Ethnography*, 5(3): 315-347, 2004.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計1件）

1. 相原基大・秋庭太「業界を取り巻く史的文脈の数的把握—産地研究への計量テキスト分析の適用—」『経営学論集（龍谷大学）』55(4): 17-34, 2016.（論文審査あり）

〔その他〕

発表論文

1. 相原基大「イタリア眼鏡枠産地を取り巻く競争の文脈の形成と展開」Discussion Paper in Economics and Business, Hokkaido University, Series B, 2019-175, pp. 1-53, 2019.（論文審査なし）

6. 研究組織

(1) 研究分担者

なし

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：秋庭 太

ローマ字氏名：(AKIBA, Futoshi)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。